
リーディングの指導(1)

— 読解力と音読 —

佐藤 敏子

1. はじめに

中学校では平成5年度より、高等学校では平成6年度より、新しい学習指導要領に基づく授業が開始された。特に英語学習に関して teacher-centered から learner-centered へ、また従来の文字中心の英語の授業形態から oral English を重視した授業形態に大きく変化しようとしている。特に高等学校ではオーラルコミュニケーションA, B, Cが英語の中に設けられ、lesson focusing on oral communication が全国の高等学校で実践されている。

このような英語教育環境の中で、大学の英語教育も徐々に変化している。「東大教養学部で英語の授業の大改革を行なった。」で始まる東京大学教養学部英語教室編の *The Universe of English* が従来の「訳読式」の授業から「英語の文章を英語のまま読むのを支援する」ことを意識して出版された。

コンピュータやLL教室の普及により、「耳から入る英語」はハードウェアの導入により一般化されたが、依然変化の少ないのが reading comprehension を意図した授業の内容である。

本稿では、「読解力の伸長」を目標にした授業展開をするために必要な第1情報、すなわちつくば国際大学（以後本学とする）平成6年度入学学生の「読解力に関する調査」を行ない、どんな要素と読解力が大きく関わるかを考えていく。

2. 研究の方法

(1) 被験者

被験者は本学情報産業学科1年生61名とする。その内容は、学生を五十音順に並べ4クラスを編成し、その内の2クラスを抽出した。特別な意図を持たないクラス編成の中から抽出した2クラスである。

(2) 音読テスト

①音読教材の選定

本学の現代英語Iの授業は、英語の4技能のうち、主に「読むこと」「書くこと」に関する内容を目標にした授業である。本年度担当の2クラスでは「reading comprehension, 特に速読の技術を身につけること」を目標に授業を開始した。授業で使用するテキストおよび参考図書は以下の通りである。

北尾謙治, 北尾 S. キャスリーン *American Potluck* (朝日出版社)

Understanding English Paragraphs (英潮社)

Mikulecky, B. S. and Jeffries, L. *Reading Power* Addison-Wesley Publishing Company

音読教材を *American Potluck* の 2. Abraham Lincoln を読み進めて行く中で、彼の有名な演説 “The Gettysburg Address” (資料1) とした。音読教材の選定は「音読の価値のある内容、様式」を持つものでなければならない。この点に関しては “The Gettysburg Address” は問題はない。

②課題の指示

学生は LL 教室を使用し, “The Gettysburg Address” のモデル・リーディング・テープを各自ダビングする。練習時間は授業の中で確保した。

さらに昼休みを利用し, LL 教室を 2 回開放し, 学生に利用させた。その練習成果をテープに録音し, 夏休み前までに提出することを学生に指示する。

③音読評価項目の設定

“The Gettysburg Address” の音読録音テープの評価に関して, 以下の評価項目を設定した。

- ・強勢とリズム
- ・イントネーション
- ・区切り
- ・発音

さらに, それぞれの項目は, 1… poor, 2… not good, 3… good, 4… excellent, の 4 段階評価とする。

しかし問題は残る。それぞれの項目を足していくと, 音読全体の評価となりうるかという問題である。たとえば, 音声全体の英語らしさ, 感情移入など, この項目では評価しきれない。今回はそれを補うために試験的に第 5 番目の項目として「全体的な印象」という項目を設定する。以上の経緯より, 以下のように評価項目は 5 項目, 評価段階は 4 段階とする。

	1 (poor)	2 (not good)	3 (good)	4 (excellent)
強勢とリズム	-----	-----	-----	-----
イントネーション	-----	-----	-----	-----
区切り	-----	-----	-----	-----
発音	-----	-----	-----	-----
全体的な印象	-----	-----	-----	-----

④評価の手順

Hughes (1989:110) は「評価が信頼性の高いものとなるためには, 評価項目と評価基準を明確にすること, 評価者が複数であること, 評価者が評価項目, 基準を使うことに慣れていること」を掲げている。評価基準と項目についてはすでに記述したので, ここでは後半の部分について述べることにする。

(a)二人の評価者

授業担当者一人では被験者の日頃の学習態度など別の要素が入ってしまうので, また, non-native であるということを考慮して, もう一人の評価者を (ア)被験者を知らないこと (イ) native speaker であることを条件で選んだ。(Mr. John Middleton 英国・オーストラリア国籍)

(b)評価基準に関する共通理解

2つのテープを任意に選び試聴し、各自、評価表に合わせて評価をする。その後、評価の基準を明確にし、お互いに共通理解を得るために話し合いを行なう。

以上の手順を経て学生の音読テープの評価は行なわれ、結果は以下の通りとなる。

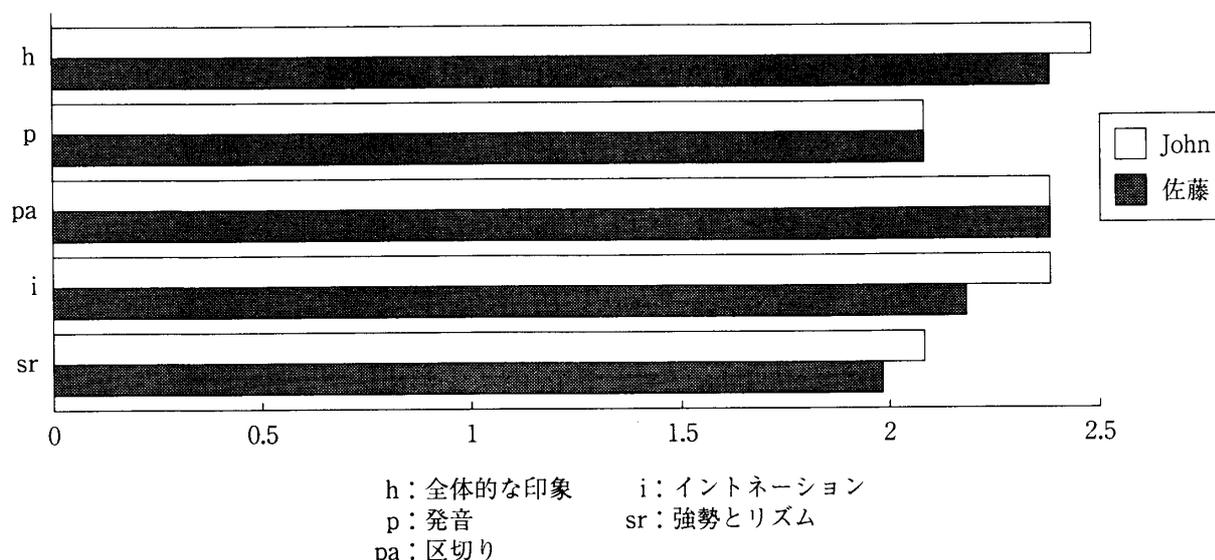


図1 評価者別の5項目に関する評価の平均値

今回試験的に analytic な他の項目に対して、holistic な項目「全体的な印象」を入れたが、結果的には二人の評価者 (non-native, native) とともに「区切り」の項目とほとんど変わりなく、「全体的な印象」は「区切り」の影響を受けていることが明らかになった。そして次は「発音」ではなく「イントネーション」の影響が大きいことが興味深い結果である。なお、この項目の細かい弁別については別の稿で行なう。

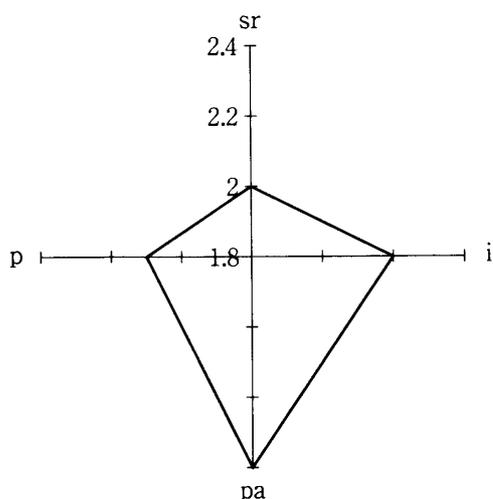


図2 4項目の評価平均値 (評価者: 佐藤)

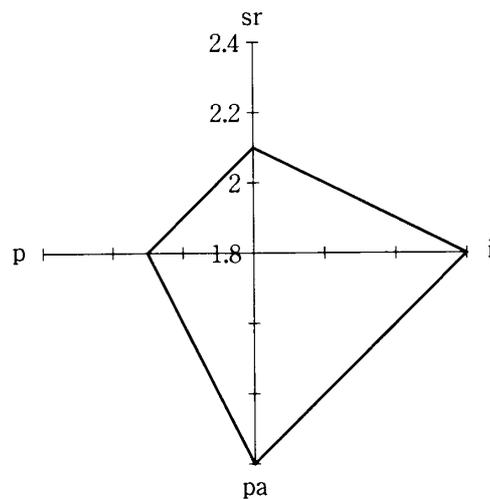


図3 4項目の評価平均値 (評価者: John)

(3) 読解力テスト

読解力テストとして、資料2にあるようなクローズ法による調査を行なった。*American Potluck* の 3. A Famous Humanitarian で Helen Keller の生涯を読み、*The Miracle Worker* のビデオですでに “content schema” は input 済みである。今回、特にクローズ法による調査を取り上げて読解力の傾向を探る。それぞれの正答率は表1の通りである。

表1 本学学生のクローズ法による読解力調査

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
%	100	88.52	93.44	91.80	96.72	100	95.08	95.08	98.36	93.44
No	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
%	86.89	83.61	80.33	73.77	91.80	91.80	91.80	90.16	80.33	90.16
No	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
%	91.80	81.97	93.44	93.44	93.44	86.89	85.25	18.03	80.33	19.67
No	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
%	54.10	0	86.89	67.21	93.44	91.80	95.08	29.51	91.80	83.61
No	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
%	77.05	22.95	55.74	83.61	42.62	18.03	22.95	4.92	80.33	26.23
No	51	52	53	54	55	56	57			
%	14.75	73.77	16.39	19.67	39.34	75.41	32.79			

①誤答分析

(a)No.14の場合

No.1~No.26までは選択肢が与えられている問題である。表1から明らかなように、正答率が高いところである。その中で他と比べて低いのがNo.14である。

その誤答を整理すると次のようになる。(数字は誤答の件数)

became … 3 loved … 1
 find … 7
 something … 2 teacher … 2

誤答を「文法的な知識の欠如」から生ずるものなのか、それとも「読解の過程」によるものなのかを考えていく。

“He”という主語の後なので「動詞」が入るという「文法の知識」があれば something, teacher はこない。この2つは明らかに「文法の知識の欠如」から生ずる誤答である。一方, became, loved, findは「読解過程」による誤答であると考えられる。(ただし find については「文法的誤り」も含む。)

以上の結果からNo.14の分析結果は以下のようになる。

「文法的な知識の欠如」…4(5)
 「読解過程」…11

(b)No. 28と32の場合

次にNo. 27~44について分析する。ここでは、単語の最初の文字を与えてある。特に正答率の低いのはNo. 28とNo. 32である。No. 14と同じように検討をする。

No. 28

無解答…20

not …13 near … 6 noisy … 1 nice … 1

nesty (nonsense word) … 1

name … 4 neck … 1 need … 1

これを分類すると以下のような結果になる。

「文法的知識の欠如」…22

「読解の過程」… 6

No. 32についてはいままでのような分類では十分ではない。誤答を「文法的知識の欠如」と「読解の過程」の両面から考えていく。

無解答… 5

	「文法的知識」	「読解の過程」
teaching … 2	×	×
telling … 1	×	×
talk … 6	×	×
tell… 1	×	×
try … 1	×	×
theach (teach?)… 1	×	×
teach …23	×	×
teacher … 2	×	×
to … 2	×	×
too … 1	×	×
treated … 1	○	×
told … 1	○	×
teached … 2	○	×
tought (taught?)… 2	○	×
taught … 3	○	×
talked … 1	○	×
tried … 1	○	×
teaches … 2	○	×
tells … 2	○	×
thinking … 1	×	○
think … 1	×	○

No. 32は正答率0%のところである。圧倒的に「読解過程」の問題による誤答が多い。

(c)No. 48の場合

No. 45からは自由記述式となる。その中で一番正答率の低いNo. 48 (4.92%) をNo. 32と同じように分析する。

無解答…7

	「文法的知識」	「読解過程」
food … 1	×	×
something … 1	×	×
thirsty … 1	×	×
feeling … 1	×	×
cool … 1	×	×
spelled … 1	×	×
water … 29	×	×
drink … 5	○	×
hand … 4	○	×
knife … 1	○	×
well … 1	○	×
show … 1	○	×
walk … 1	○	×
watch … 1	○	×
prace (nonsense) … 1	?	?

ここでも「文法的な知識」による間違いが35, 「読解過程」での問題が49と, 圧倒的に「読解過程」での問題が多い。

3. 結果

(1) 黙読と音読

最近, 音読指導の評価が低い。「音読=意味の伴わない読み」という考えさえある。高梨・高橋 (1987: 136) は図4のように「(理解度は) 音読と黙読の差は文章が難しいほうが, また読み手の理解力が低いほうが大きい」としている。

しかし問題の本質は音読の指導法にある。音読の目的は「文字の音声化」にあるわけではない。英語を正しい発音(ストレス, ポーズ, イントネーションなどを含む)で読むことによって内容を正確に把握させる活動が音読の目的である。「内容把握と文字の音声化が相互排除の関係に立つ可能性」は指導方法で解決できる。とくに, 文字を正確に音声化

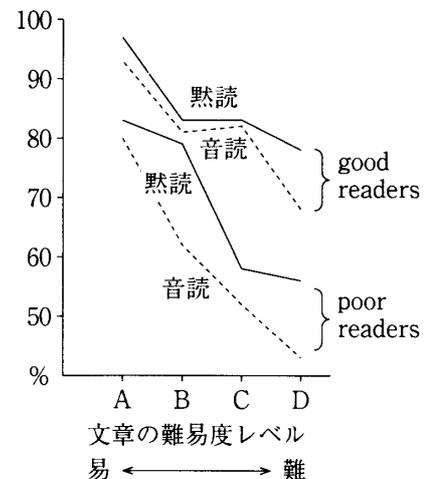


図4 音読と黙読の理解度

する訓練を受けていない学習者にとって、黙読に移行する前の大切な学習過程であると考えられる。

(2) 音読と読解力

「読解力を支援する一つの要素として音読力がある」ことを証明するために、次のような手順を踏む。

①達成群・未達成群の設定

資料2を使って行なった調査結果から上位5名、下位5名を抽出し、それを達成群、未達成群とする。

②達成群・未達成群の音読評価点

資料2を音読した上記達成群・未達成群それぞれの評価点の平均値を算出する。それを表にすると表2となる。

表2 達成群・全学習者・未達成群の音読評価平均値

群 \ 項目	強勢とリズム	イントネーション	区切り	発音
達成群	2.6	3.1	3.2	2.9
全学習者	2.0	2.3	2.4	2.1
未達成群	1.5	1.7	1.6	1.0

この表をグラフにすると図5となる。

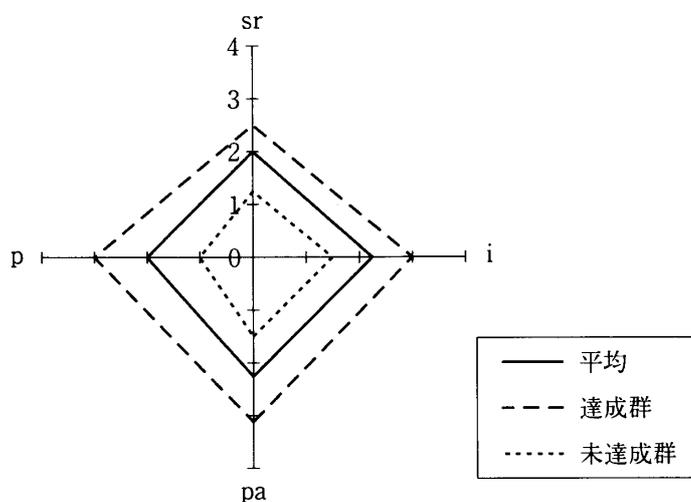


図5 達成群・全学習者・未達成群の音読評価平均値

(3) 考察と結論

表2, 図5より達成群・未達成群の差は強勢とリズム…1.1, イントネーション…1.4, 区切り…1.6, 発音…1.9となる。どの項目もクローズ法や paragraph analysis で測定した読解力の高い群が音読評価も高い評価を得ている。高梨・高橋 (1987: 145) は「外国語の初学者では、それが音声化であろうと、特定の文字を拾い上げることでであろうと、読みを構成する多数の相のうち一つに神経を集中させると、それより上位の相 (この場合文の理解) への注意が自動的に薄れてしまう」と

断定している。しかし、今回の調査は、最近の「音読指導は読解力向上には向かわず、むしろスピーキング指導の一貫として行なうべきである」という反証になっている。「正しい発音」、「センスグループを意識させる正しい区切り」に対して高い評価を得ている学習者は、音読しながら読解過程を踏んでいると考えてもよいのではないか。被験者の読解力達成群が「区切り」の項で3.2という高い評価点を得ているのは、音読しながら読解過程の活動を行なっていると考えるとよいという証拠である。このことから、音読は大学生の言語学習過程においても重要な学習形態であると言える。

つぎに、学習者にとって読解力向上のためにはどんな指導が必要なのであるかという問題である。今回の誤答分析の結果から、「文法的知識の欠如」が最大の原因ではないという結論に到着する。むしろ「読解過程」に大きな問題がある。今後の授業のなかでこの「読解過程」に焦点をあてた活動を展開しなくてはならない。中学校、高等学校の英語教育がすでにコミュニケーション重視の授業に方向を定めた情勢のなかで、大学の英語教育がいつまでも「訳読式」の授業であってよいわけがない。

今回の調査結果から、今後「効果的な音読指導」「読解過程を重視したリーディング指導」の2点について研究を進めていきたい。

(さとう・としこ 産業情報学科)

文献

- Hughes, A. 1989. *Testing for Language Teachers*. Cambridge University Press
- Gregory, T. 1991. 『英語スピード・トレーニング教本』 大修館
- Kitao, K. and Kitao, S. K. 1985. *American Potluck*. 朝日出版社
- Kitao, K. and Kitao, S. K. 1990. *Understanding English Paragraphs*. 英潮社
- 小池生夫監修 1994. 『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』 大修館
- 小林祐子 1992. 「読解過程の指導に向けて」『英語音声学と英語教育』 開隆堂
- Mikulecky, B. S. and Jeffries, L. 1986. *Reading Power*. Addison-Wesley Publishing Company
- 松村幹男他 1984. 『英語のリーディング』 大修館
- 高梨庸雄・高橋正夫 1987. 『英語リーディング指導の基礎』 研究社
- 谷口賢一郎 1992. 『英語のニューリーディング』 大修館
- 東京大学教養学部英語教室編 1993. *The Universe of English*. 東京大学出版会
- 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ編 1992. 『学習者中心の英語読解指導』 大修館

資料 1

The Gettysburg Address

Fourscore and seven years ago our fathers brought forth on this continent a new nation, conceived in liberty and dedicated to the proposition that all men are created equal.

Now we are engaged in a great civil war, testing whether that nation, or any nation so conceived and so dedicated, can long endure. We are met on a great battle field of that war. We have come to dedicate a portion of that field as a final resting-place for those who here gave their lives that the nation might live. It is altogether fitting and proper that we should do this.

But, in a larger sense, we cannot dedicate — we cannot consecrate — we cannot hallow — this ground. The brave men, living and dead, who struggled here, have consecrated it far above our poor power to add or detract. The world will little note nor long remember what we say here, but it can never forget what they did here. It is for us, the living, rather, to be dedicated here to the unfinished work which they who fought here have thus far so nobly advanced. It is rather for us to be here dedicated to the great task remaining before us — that from these honored dead we take increased devotion to that cause for which they gave the last full measure of devotion; that we here highly resolve that these dead shall not have died in vain; that this nation, under God, shall have a new birth of freedom; and that government of the people, by the people, and for the people shall not perish from the earth.

資料 2

現代英語 I 前期考査 (出題 佐藤 敏子) 1994.9.26

答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

- 1 次の英文を読んで下線部に入る語を解答用紙に書きなさい。ただし選択肢がある時はそれを使い、最初の文字が指示されているときは、その指示に従いなさい。

THE STORY OF HELEN KELLER

Helen Keller was a famous American. She was a writer and a speaker. She wrote books and articles about education and politics. She traveled to every part of the world. But the surprising fact about Helen Keller is this: She could not see and she could not hear. This blind, deaf woman was a very special person.

Helen Keller was not always blind and deaf. She was all right when 1 was born on June 27, 1880. But she 2 very sick the next year. After that, she was not the same. Her parents 3 her

and 4 tried to take care of her. But it was not easy. Her 5 could not show her what to do.

By the time Helen was six 6 old, her parents were very unhappy. 7 knew that Helen was very smart. 8 they could not teach her. They did 9 know what to do. But they knew they had to do 10.

When Helen was seven, they decided 11 find help for Helen. They wrote to Michael Anagnos, a 12 in Boston. They asked him to 13 a teacher for Helen. He 14 to them and said: "I know 15 good teacher for Helen. Her name 16 Annie Sullivan. I will send her to you."

they parents a is she loved years to became they teacher but find
not wrote something

The Kellers were very pleased. They 17 a good teacher for Helen. Then 18 could learn and they could all 19 happy. The teacher could show Helen 20 to do. She could teach Helen 21 read and to talk.

The Keller 22 lived in the South. They had a 23 house in a small town in Alabama. 24 were not rich, but they were 25 poor. They could pay Annie Sullivan to 26 Helen.

be what they wanted family to she beautiful not teach

Helen was not always a nice child to be near. She did not know how to e 27 at the table. She made strange n 28 like a bird. She sometimes hit h 29 mother or her father. She often r 30 around the room and hurt herself.

I 31 was hard to know what Helen t 32. She could not see and she c 33 not hear. She could not k 34 the world. No one knew how t 35 tell her things. And she could n 36 tell things to anyone else.

Annie Sullivan finally came to the Keller home. She came by train from Boston. Helen's m 37 and father tried to tell Helen t 38 Annie was her friend. They could n 39 make her understand.

Annie began to t 40 care of Helen. She tried to t 41 her. She showed Helen the names o 42 things. She wrote the words on H 43 hands. But Helen did not understand. A 44 began to feel hopeless.

One day, Annie was trying to teach Helen. They went for a walk, and 45 came to a well. Helen was 46 warm and thirsty. Annie put Helen's hand 47 the water. She took a 48 and gave Helen a drink. Helen 49 glad to have a cool drink.

50 Annie took Helen's hand. She used her 51 to write "WATER" on Helen's 52. Suddenly, Helen understood! She knew that 53 was telling her something. The feeling 54 her hand was the name for 55 !

Then Helen was very happy. She 56 excited. Now she could find out the 57 of everything. She took Annie's hand.

- 2 次のパラグラフを読んで該当する文の番号を書きなさい。該当する文がない場合には NA と書きなさい。

Clubs in the United States

¹People in almost every country enjoy joining clubs, and Americans are no exception. ²Clubs in the United States can be divided into several types. ³In this paragraph, I will discuss a few of them. ⁴One type is service clubs. ⁵Members of service clubs are involved in community service. ⁶Some service clubs include the Elks Lodge, the Lions Club, and the Shriners. ⁷Another kind of club is social clubs for couples. ⁸These are places that have facilities where members can go to eat and dance. ⁹Two examples are the Eagles and the Moose Lodge. ¹⁰A third type of club is the sports club. ¹¹Golf clubs are very common. ¹²Tennis clubs have also become popular in recent years. ¹³Children also have their own clubs. ¹⁴For example, Boy Scouts and Girl Scouts are clubs in which children can learn skills and participate in useful activities. ¹⁵The last type of club that I am going to discuss is the self-help club. ¹⁶These are clubs for people who have particular problems. ¹⁷One of the best known is Alcoholics Anonymous. ¹⁸Other self-help clubs help people lose weight or stop smoking.

1. sentences in the introduction: _____
2. sentences in the discussion: _____ ~ _____
3. sentences in the conclusion: _____
4. topic sentence: _____
5. sentence that doesn't belong: _____
6. sentences that list the types of clubs: _____
7. sentences that explain the first type: _____
8. sentences that explain the second type: _____
9. sentences that explain the third type: _____
10. sentence that explains the fourth type: _____
11. sentences that explain the fifth type: _____

Teaching Reading Skills (1) — Reading Comprehension and Oral Reading —

Toshiko Sato

The purpose of this study is to examine what skills are necessary for reading comprehension.

The procedure for this study is as follows:

- (1) I tested the students of Tsukuba International University on the ability of oral reading and reading comprehension.
- (2) Their performance in oral reading is rated on a four-point scale for each of the following; the stress and rhythm, the intonation, the pause (phrasing), the pronunciation, and the overall impression.
- (3) The scores of each item of the high and low scoring groups of the reading comprehension test are totaled respectively.

The results of the consideration led to the following conclusions:

- (1) Ability in reading comprehension has a close relation to ability in oral reading.
- (2) Training for oral reading is necessary for developing ability in reading comprehension.

Key Word: reading comprehension, oral reading